

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270105325		
法人名	有限会社メディカル葉山		
事業所名	よなわグループホーム		
所在地	長崎市岩屋町25-7 4階		
自己評価作成日	令和 5年 3月 8日	評価結果市町村受理日	令和5年6月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 5年 3月 30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「家庭的な雰囲気の中で安心した生活の実現を目指す」「優しい心と笑顔で寄り添いましょう」の理念をもとによなわグループホームは日々の暮らしから最後の看取りの介護まで行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立者が目指す“医療と介護の一体化”には、医療分野の『専門性』と介護分野の『家庭的な温かい人間性』というそれぞれの特性を活かし補い合うことで、質の高い介護サービスを実現したいという思いが込められている。「家庭的な雰囲気の中で安心した生活の実現を目指す」という理念の下、綿密な介護計画と実践の一貫性、職員による入居者本位の暮らしの提案がある。調理専任職員による手作りの食事や職員とのレクリエーションにより入居者の笑顔を引き出している他、入居者が以前飼っていたペットと似たぬいぐるみを準備したり、誕生日に好みの生活用品を贈ったりするなど、本人に寄り添った心遣いは秀逸である。医療機関として法人の役割は終了したものの、地域の包括支援センターと連携し、福祉事業の推進啓発活動に取り組んでいるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はフロア内に掲示、毎日理念を唱和し頭に入れたうえで理念の実現に向け日々取り組んでいる。優しい心と笑顔で寄り添う。	理念をホーム内に掲示し唱和している他、リビングに掲げている「優しい心と笑顔で寄り添いましょう」をモットーに職員の浸透を図っている。設立者が目指す“医療と介護の一体化”による支援により、それぞれの特性を活かし安心して暮らせるよう、理念の具現化に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染が発生前までは学校の生徒さんとの交流もありましたが現在はありません。地域学校への訪問。	自治会に加入している他、コロナ禍以前は小学生の訪問があり、ホーム内で入居者との交流しており、コロナ禍でも感染状況を見ながら包括支援センターと連携し、近隣中学校で認知症講座等を行っている。また、地域住民向けにもホームの事業内容を説明する等、交流を広げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括の方々と連携して介護の実習を行っている。エレベータ内にホームの紹介や見学の案内等を掲示。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回行い意見交換している。	会議は年6回法人内施設合同で対面により開催している。介護の現状に沿ったテーマを選定し、事前に委員に議題を伝えることで意見が出やすいよう工夫している。また、議事録に参加者との意見交換内容も詳細に記している。全家族に議事内容を送付し、取組内容への理解、周知に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連携は取っています。運営推進会議を行っている。	今年度は行政からオンラインと会場開催による研修の案内があり、研修に参加している。日頃から、運営における手続きや不明な点を問い合わせ、必要時は出向している。また、担当課職員による指定更新時の現地確認訪問やコロナ禍では抗原検査キットの配付など連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会にて研修を行っている。現在、身体拘束の必要性はないが職員は何をしたら身体拘束になるか周知しておりそのためのケアを実施している。	指針を整備し、身体拘束適正化検討委員会を3ヶ月に1回開き、センサーマット使用等検討・協議している。同日に研修会も開催し、動画を視聴し、その後確認テストを実施している。職員は言葉による拘束に留意し入居者の行動を見守りながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加した職員は学んだ事を他の職員に報告。ホーム内で研修会やビデオ観賞を行い職員で話し合い虐待がないよう取り組んでいる。1人1人が注意し毎日の介護に努めている。職員同士の会話や申し送りで見落としがないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設での対応者がおられないため実施される機会がない状況である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明を丁寧に説明している。利用料金や医療連携体制の実際など事業所のケアに対する考え方や取組を説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見を聞き希望に出来る限り対応している。ケアプランの説明時に必ずご家族の要望や意見を聞きサービス計画にも反映している。	入口に重要事項説明書を掲示し、意見箱を設置する他、エレベーター内にグループホームの意義を説明したポスターを貼ることで、家族等に運営方針を周知する手立てをとっている。家族からの要望で法要に出かけた事例がある。LINEでの情報共有、タブレット面会、便りの送付等の方法で家族の意向を把握している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1か月に1回管理者会で各部署の意見報告を出し反映させている。	月1回の法人管理者会議で各事業所の現状や職員の意見を報告している。職員の提案で居室入り口に避難完了目印花飾りを付けたり、足浴用バケツを購入したりした事例がある。ただし、コロナ禍の影響もあり、現在管理者と限られた職員のみがオンライン研修を受講している。	全職員が研修を受講できるよう、時間や場所を確保するなど検討・取組が望まれる。そのことにより、共通の話題をもとに介護の質の向上に向けた様々な提案・意見が職員から寄せられることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場でおきている状況や変化を知り職員の努力や成果を把握している。健康診断も実施。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成の為資格取得や研修の参加を積極的に勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会に所属、定期的な会合に参加し情報交換など行っている。長崎県主催の複数事業所連携事業に参加。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の困りごとに対しその都度話を聞き、納得されるまで対応している。不安に陥る事がないように気掛け、要望を伺い入居者様の気持ちを理解するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族よりご意見、要望など伺っている。日常の面会の中でも気軽に会話できる雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分なアセスメントをとりより良いケアを目指してホームで出来るサービス提供を提案している。ご本人やご家族から意見や要望をお聞きしその内容に対するサービスを提供。ご本人やご家族の不安が少しでも軽減出来るように要望や思いに対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクなど一緒に参加し楽しんで頂く。洗濯ものを一緒に畳んだり、テーブル拭きなど出来る限りの家事を一緒に話しながら楽しくしている。朝食、昼食を一緒に頂く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも連絡をとれるような環境作りに努めている。面会時にはその時々の入居者様の様子や近況報告をしご家族様にも今の状況を知って頂きご希望をきき支援に努める。コロナで面会制限され十分に様子が見る事が出来なかったが電話にて報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染予防の為出来てないが感染状況によって馴染みの方の来所を歓迎している。利用者様ご本人が今まで電話連絡を取りあっていた方には自由に電話して頂いたり出来るよう声掛け対応している。	地域の民生委員であった入居者のもとに敬老会の案内が届いている。文字練習ワークを用いて、家族に手紙を書く練習を行った事例もある。また、入居前に飼っていた犬に似たぬいぐるみを職員が贈ったり、好きな芸能人の画像を探して見せたりする等、入居者の生活歴に応じた関係継続の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご自分たちでコミュニケーションをとられ、入居者様同士でトラブルがないよう見守り、トラブルになりそうな時は間に入り一緒に話をする。話題(コミュニケーション)のきっかけを提供している。テーブルを囲んで皆が交流できるようになっている。レクレーションなど全員で出来るよう声掛けしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても他施設へ問い合わせたり、お悔みなどに行きご家族にお会いした時はお互いの近況をお話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望を確認し申し送り等で職員全体が把握できるようにしサービスプランに取り入れている。意向が聞けない時はその人にとってどうしたらよいか職員間で検討している。本人の立場に立って考えられるよ努めている。	起床・就寝時間等は、本人の生活リズムに沿った支援を行っており、本人が、その日に着たいものを選んでい。入居者の要望で習字作品を居室前の廊下に掲示している。意思疎通が困難な入居者の意向は職員が表情や態度で確認し、申し送りノートやグループLINEで情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントでご本人、ご家族から生活歴など出来るだけ詳しく情報を得るようにしている。入所後は信頼関係を築きながら徐々に把握するように努めている。ひとりひとりが基本情報書に目を通し情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日どのように過ごされたか個人記録を記入し、常に申し送り等で職員は情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの更新時期に合わせて全職員に情報を聞き後本人、ご家族にも意見を聞いたうえで計画を作成している。3か月ごとにプランの見直しをしモニタリングは職員参加のカンファレンスを行い確認、見直しをする事で次のプランに活かしている。	入居から1ヶ月後に介護計画を策定している。アセスメントを基に共通サービス、個別サービスを設定し、目標項目毎に達成状況を確認している。モニタリング時は介護日誌、ADL・IADL状況書等で職員と共に現状を評価し、次回のプラン作成に繋がっている。PDCAサイクルに基づく丁寧な取組が確認できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、日報、バイタルチェック、記録を実施しており申し送り等で職員全員が情報を共有できるように努めている。記録を見返したりして状況の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「～したい」「○○が食べたい」等入居者の方々の要望があれば出来る範囲でかなえている。ご本人、ご家族の状況に応じて通院介助などの支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ渦で地域資源をなかなか利用しにくくなっている。地域の方々への挨拶は心がけている。運営推進会議により地域の方々と連携を取っている。安全な暮らしを送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月数回主治医の訪問診療が行われ、定期的に検査など対応している。ご本人及びご家族からの要望があれば対応している。ご本人や家族の希望があれば今までのかかりつけ医への受診も可能であり病医院との連携をとっている。	2つの協力医の往診を定期的に受けている。入居前からの病院も継続可能であるが、夜間や休日も対応可能であることを条件としており、現在は他科受診のみ継続している入居者がいる。基本的に通院は家族対応であるが、都合によっては職員が同行し、双方で報告・確認している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の方へ状態報告が行われている。24時間緊急連絡、夜間の急変には看護師が対応出来るような体制がとられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護サマリーや情報提供書を交付しADL情報、内服情報を伝えている。退院時には病院より情報提供書を交付してもらっている。入院した後の状況を病院と連絡を取っている、		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族のご希望などをお聞きし対応策を考えながら話し合いながら支援に努める。医師、職員、ご家族と方針を話し合い、チームでのケアに努めている。	昨年は1例の看取りを支援している。入居時、看取りに関する指針を家族に説明し同意を得ている。重度化した際は医師を交えた意向の再聴取や説明により、家族の同意を基に支援している。ただし、医療処置や苦痛が伴う場合等、対応が困難となった場合には、他施設や医療機関へ入院することもあり、ホームの方針と一致していない。	ホームとしての重度化の定義を具体的に定めた上で、看取りの方針を検討・明文化していくことが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変の場合すぐに担当医に連絡し対応出来るようにしている。応急手当や初期対応の訓練は行っていない。(マニュアルあり)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	避難訓練を実施し、火災が発生した場合の連絡網を作っている。訓練はしているが地域と協力体制を築いているかは分からない。	毎月自主訓練を実施しており、内3回は日中・夜間想定により同建物内の事業所合同である。非常持ち出し品、備蓄の整備もある。ただし、今年度は消防署立会いによる訓練は未実施で、非常勤を含む全職員の参加もこれからである。また、自然災害時は、建物内に留まることを定めているが、具体的な対策は確認できない。	コロナ禍もあり、集団での訓練自粛はやむを得ないが、状況を見ながら全職員参加による取組に期待したい。また、令和5年6月に消防署立会い訓練を予定があり、助言・指導から対策を図ることが待たれる。自然災害時の避難対策も合わせて検討されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室やトイレでの排泄介助時にはドアを閉めたりご本人を尊重するような対応にと努めている。基本は敬語使用だが失礼のないような言葉遣いを心がけている。個々人とコミュニケーションをとり信頼関係を結べるよう言葉をかけている。利用者それぞれの生活歴を理解し変わらない生活を続けられるよう考えながら対応を行っている。	理念には“高齢者の方々に感謝して恩返しする心を大切にする”という思いが込められており、職員は人格の尊重、誇りを損ねない声掛けに徹している。排泄時はドアを閉め、なるべくその場から離れて見守るなど、プライバシーに配慮し、失禁時もさりげなく支援している。写真掲載等個人情報の使用については家族の同意を取っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を聞くように心がけている。ご本人が困難なようであればいくつか提案しながら自己決定がしやすいような支援を行っている。観察を十分に行い表情などで訴えをキャッチできるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の思いやペースに合わせるように心掛けている。ご本人の希望とこちらからの誘導と自然に過ごせるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2～3か月に1回訪問美容サービスを取り入れている。着たいお好みの服を着られるよう声掛けしている。ご家族と連携して洋服を揃えている。入浴後ボディクリーム、ヘアオイルなどのおしゃれ出来るよう努めている。髪を結んだりしてあげている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の好みのメニュー、旬の物をなど取り入れ、楽しく食事が出来るように努めている。体調不良時、食欲がない時はお好きなものを伺って提供している。テーブル拭き、時々食材の皮むき等など手伝って頂いている。準備、片づけは職員が行う。	ホーム内のキッチンで調理専任職員が調理を行っている。入居者一人ひとりの好みや体調等に応じて、食事形態や内容を変更する等配慮している。また、手作りのおやつや季節感のある献立を取り入れ、入居者の楽しみとなるよう工夫し、食事を提供している。朝食副菜も調理専任職員が準備しており、充実した食事は特長である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後食事量をチェックしている。利用者の状態を把握しミキサー食、切り菜、摂取量など支援している。水分補給の時間を定めて脱水症状にならないよう気をつけている。食欲がない方には栄養補助食品など提供している。不足時は医師へ報告し必要な時は栄養剤や点滴などで対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後言葉かけをしケアを実施し困難な方は介助にて口腔ケアを実施している。歯科医師、衛生士の訪問も定期的にあっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を目指している。起床時、毎食後等1人ひとりの排泄パターンを把握しその都度声掛けしてトイレに誘導している。トイレに行けない方も定期的にポータブルトイレに移乗し排泄を促している。	チェック表で利用者ごとの排泄リズムを把握し、適時の声掛けや誘導を行ったり、使用パッドを検討したりするなど、可能な限りトイレでの排泄を支援している。車椅子で入ることができる広いトイレと個室トイレがあり、入居者が自ら選択して利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	担当医に相談し指示の下、下剤の与薬など行っている。食事に乳製品、プルーンなど提供、水分補給に努めている。腹部マッサージや体操など取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日と時間帯は決めてある。その日の体調に合わせて入浴して頂いている。拒否がみられる方にも声掛けをうまく行い対応している。入る時間を遅らせたり、次の入浴日に入ってもらったりの対応をしている。	週2回午前中に入浴を支援している。職員は、入居者の体調や生活リズム、タイミングをみて対応しており、入浴時は浴槽に浸かり、ゆったりと楽しむよう支援している。入居者の肌の状態や好みに応じたボディミルクやヘアオイルを誕生日プレゼントとして贈り、使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度管理も行っており、本人の体調に合わせて希望に沿うよう対応している。昼食後お昼寝される方もいればテレビを見ておられるかたもいるため後本人の意思で休んで頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各人のお薬手帳を随時確認出来るよう、薬箱に保管している。症状の変化時等主治医へ報告臨時薬など申し送る。錠剤を飲めない方は薬局で粉碎にしている。薬情を読み医師の説明を記録に残し、状況の変化を見落とさないよう努めている、		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日のお祝いや夏祭り、クリスマス会など各月の行事など行い入居者が楽しんで頂けるよう行っている。職員と一緒に貼り絵、折り紙など作ったり季節の食べ物つわの皮むき、キンカンのへた取りなど支援している。ボードゲーム、パズル、かるた等をおいて皆で楽しめるようにしている。今まで続けてきた生活習慣を聞き趣味は続けて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為外出が極端に減っている。ドライブのみで対応している。(車から降りないで)	コロナ禍で外出が難しくなっている状況下、回廊式の外廊下やベランダを使った外気浴や簡単な散歩を実施している。家族から付き添い外出の要望があり、コロナ感染状況を見計らって病院受診や法要出席を行った事例がある。コロナ禍収束後には、花見等の外出支援を検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はホーム内で預かり、ご本人が必要なものに使っている。年に2回預かり金収支報告行っている。ご本人の希望があれば家族と話し合って財布を所持したり出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より要望があれば家族と連絡がとれるように対応している。携帯電話を持っておられる方は携帯で話す事が出来るよう支援している。葉書が届いたら葉書を買ってきて返事を出すよう促す。タブレットを使っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでのんびり過ごす時間を設けている。季節の花を飾ったり季節に応じた飾り付けをしている。分かりやすいようトイレ等は矢印で方向が自分で分かるようにしてある。室温、光量はその都度対応している。換気も行っている。	共用空間には季節を感じる展示物や入居者の制作物を飾り、明るい雰囲気を出している。常に換気を心掛け、ビルの4階でありながら外部との繋がりが感じることができている。リビングルームにはウォーターサーバーを設置しており、自ら利用する入居者もいる。職員が持参した本や雑誌を自由に閲覧し、寛ぐ様子が見える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	声掛けを行いリビング共用の場所へ誘導して過ごしてもらっている。入居者様が一息つけるように職員休憩室の畳に腰をおろし談笑してもらえる空間を作っている。居室にテーブル、椅子を置いている。椅子に座り読書などされる。カフェスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた物や好みの物があれば入居時に持参して頂いている。必要なものを尋ね暮らしやすい生活空間を感じて頂けるよう努めている。これまでの位牌に手を合わせる習慣等続けて頂くなどの配慮を行っている。	入居者は使い慣れた家具類を自由に持ち込んでおり、家族が用意した化粧水や花飾り等から家族との絆が窺える。職員は入居者が飼っていたペットに似たぬいぐるみを準備するなど、生活歴を把握した上で、居心地のよい居室を整えている。コロナ禍で中止していた業者によるワックス掛けを再開するなど、環境整備に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	レベルに応じて出来る事は自立して出来るよう配慮している。居室、共用の場所にカレンダーなど分かる事に努めている。トイレが分からない、ご自分の席が分からないと迷っている方に常にお声掛けし見守っている。また、テーブルに名前のシールを貼ったり、トイレには目印になるものなど付けて自立支援。		